

子どもを「繋げる」ってなんだ

中村俊介

学校の様子

・2年生135人（1クラス33～34人）4クラス

枚方市独自で一応低学年は35人まで体制を10年以上前から続けている。

市内2番目の大きい学校 900人（減ってきている）

体育館体育週1回のみ。もし、学年で体育館を使う行事があれば、どこかのクラスが犠牲になる。3学期は、学習発表会で体育館を使い練習するので、体育の時間が限られる。

外体育は基本2クラス合同。環境（ボールなど）が整えにくい。気を遣う。

クラスの子どもたち

男子18人女子15人

気になる子

I君 支援在籍。落ち着きがなく、授業中に奇声をたびたび言う。ここまでは、そういるような児童。

しかし、鼻水などを手でふいたり、服でふいたり、と、また、お母さんも支援が必要である。

→友達とどうかかわらせていくか。

S君 通級に通っている。思ったことをすぐ口に出す。結構大きい。自分の気分次第で動かない。理由を見つけるのに困難。お友達のかかわりもうまくない。被害妄想がかなりあり「やられた」とすぐに思う。

→一番気になる

K君 場面緘黙が見受けられる。お友達と話すことができない。

Tさん 勉強がかなりできない。ひらがなもかけない。来年度より支援に入級。友達とのかかわりも苦手言葉がなかなか出ない。親の影響が少し出た部分も見受けられた。

Mくん 親があまり面倒を見てくれない。遅刻気味。暴力的。放課後、土日に親の見ていないところで何かしている。

クラス：全体的に落ち着いている。大きなトラブルもなくぼちぼちと過ごしている。

遊びと授業の関りが違う。

1年生で4月から2か月間休校で、尚且つ、席を離したり、活動の制限があるためうまくつなぐことができていない。（こちらの問題）

あまり、前に出たがらない。表現をすることが苦手である。

クラスづくり

「少しでも子どもたちが繋がれるように」を目標に学級づくりにとりくんできた。

休校明けの1年生からもっている。ぎこちない状態から始まり、学校生活も今まで通りとはいかないので子どもたちを少しでも繋げていきたいと思った。しかし、初めての学校からいろいろなことを経験しているが、コロナで行事や、普段のことが当たり前ではない。だから、今の2年生もこれが普通だと感じている子が多いと思う。

繋ぐために

- ① 日記、作文の読みあい
- ② 通信で子どもの言葉を共有
- ③ 班長を作ってリーダーを育てる。班長へ手紙
- ④ 週1の班遊び
- ⑤ 週2回ほどのクラス遊び
- ⑥ 「ありがとう」の強要、強制
- ⑦ 班で係 3学期から

1. ひらがなが全く書けないTの思っていることがのせられた。

1年生から、引継ぎがあった、T。ADHDと診断があり、3年生から支援学級に入級。Tは全くひらがなが書けなかった。正確には書けているが、音と文字が一致していなく、とにかく知っているひらがなをただ羅列していた。、病院に通い、診断を受けてから薬を飲むようになった。すると、1学期は寝てばかりいたTも授業に参加する姿勢が激変した。月1、作文を書いているので、書くことになる。最初は、何を書こう悩んでいが、「好きなもの書いてごらん」と言うと、Tは大好きなくまのことを書いてくれた。クマの好きなところをとにかく書いてくれた。すぐに通信に載せてみんなで読みあった。

作文、日記を載せてはみんなで読みあった。子どもたちで質問をしては、子ども達は作者のことを知っていった。ここでの変化は見られないので、繋がっているの分からない。しかし、子ども達は作文を書きたいことを求めている。「先生いつ作文書くの」「次このこと書こう」と子どもたちは声をもらしていた。

2. 通信を楽しみにしている

通信の名前を決めるにあたって、おうちで募集をした。全家庭ではないが、子どもと親とでそういった話し合いをしてもらうためである。いくつか出てきて、子ども達で最後は決めてもらった。親の願いも子どもの願いもつまっている通信にしたかったのだ。今年度は「歩二三（ふじさん）」に決まった。

通信には、学校の様子、子どもの言葉、中村の日記を交えながら書いていた。(最近心も体も疲れてしまい書けてない。今日で元気をもらいまた書いていきたい)子どもたちの楽しみは、作文だ。今日は誰だろうと興味津々、自分のであったら照れくさいがにやけている。思いを共有できることもある。

中村の日記は、親と子どもの話のネタにしてもらう。学校の話の中村の日記からしてもらう。親と子どもも通信で繋げておきたいのである。

3. 班長になりたい。。。？

2年生は目立つことが好きな人が多い。(授業はそうでもない)また、自分はカッコいい人になりたいと

素直に思っている。班長を決めている。班長には厳しく注意をする。しかし、班長のご褒美として、班長になった子のみ班員から手紙をもらえる。「ありがとう」と手書きで書かれた手紙は嬉しいようである。それを目当てに班長になりたいのかもしれない・・・

席替えのタイミングで班長を変えるのだが、席替えをしても、しばらく班長を決めることをしていない。すると待ちくたびれたのか子どもから「班長決めないの」と。全体に聞くと（全員ではない）「決めたい」という声が出てくる。子どもたちはリーダーになりたいのだ。または、リーダーに頼りたいのであろう。

Mは暴力が絶えない。むかついたらすぐ手が出てしまう。いじめアンケートを取るととにかくMからの被害があることを訴えてくる。子どもたちにとっても「暴力する友達」と認識されている。また、親が面倒を見るのが難しいようで、放置気味である。朝は、親が起こすのではなく、自分で起きて来るので、遅刻は当たり前。無断欠席もしばしば。そんなMに転機が。班長に立候補したのである。立場が人を変える。本当は優しいMがよく見られたのである。「決まらないならおれがするわ」「おれが名札くばるわ」

1学期に話をしたときに感動をされた。真剣に話したら伝わることを教えてもらった。遅刻ばかりしているので、心配であることを伝えたら、気持ちが変わったらしい。（懇談より）とにかく、家が近いということもあり、家まで迎えにいたり、授業中、一瞬のスキを狙って門まで見に行っては迎えにいたりしてアピールはした。そのことは、ほかの子どもたちお見ている。。。

4, 5, 本当は遊びたいK、自分の思いを伝えられないS

場面緘黙のT。友達と話すことが苦手すぎて、中々声が出せない。スピーチも中村に伝えるようにして、中村がスピーカー代わりになっている。しかし、少しずつ声も大きくなっているし、声は出ているので、実は全体に聞こえている。子どもたちは真剣に聞いている。そして、質問をしてくれる。Tについて知りたいのだ。いつもクラスでは、一人である。本当は、みんなと遊びたい。仲良くしてくれた友達もいたが、、離れてしまう。。

班遊びは、班長が中心になって何をするのか決めている。ルールとして、勝手に決めない。をしていた。とにかく話合って決めて。決まらなかったら最終班長が決めてもよいとした。

Kは、この班遊びに少し救われているようだ。班遊びだから必ず班員はKに声をかける。Kも一人で遊ばなくてすむから安心しているようだ。そのことは、懇談の時に母親から聞かせてもらった。

クラス遊びは、遊び係が企画する。子どもたちは「いつするの」「いつするの」とよく聞いてきた。みんな遊びたいのである。初めのころは、もめたりして、反省会をしていた。しかし、今はもめてはいるのだろうが、特に不満な様子はなく、それなりに満足して帰ってきている。Kも表情には出ないが、みんな遊びの日は嬉しいらしい。（懇談より）

Sは、クラスの中で1番気になる子。一目見れば様子や、どんな子が分かる子である。Sはうまく言葉が出ない。ちょっとぶつけられたり、当てられたりしたら「ぶつかってきた。殴ってきた」という被害妄想が強い。席もきちんと座れない。ランドセルも片づけられない。自分の気分で声を上げて言いたいことを言ったり、本当に何もしないようになる。しかし、それには理由がある。なかなかつかみどころがないので困っている。（焦ってしまいSについて考えられないまま注意してしむこと多々）それも自分が言いたいことがうまく言えないからである。班遊びをするとき、一方的にいやだと言い、怒る。気分がのらない。へたな言い訳もする。（本当はちがうかもしれない）子どもたちは困るから、「こうしたら」とアドバイスでなんとかすることがある。でも、Sも遊びたいのである。班遊びの時に自分から「今日これね」とえらそうに言っているのである。しかし、優しい子どもたちは受け入れてくれる。

朝のエピソード・・・・・・・・

跳び箱で自分の表現を！！！！！！としたがうまくできないまま終わってしまった。。。。

6、「ありがとう」と言いなさい

Iは支援在籍で言葉が出ない。うまく気持ちを伝えられない。手が出る。汚いことをしてしまう。2年生も後半、やはりIの行動に少し戸惑いを隠せない子どももいる。露骨に嫌がったりして、離れようとする。(この子は真面目であるがきついところがある) その子と班を一緒にした。(だけ)

Sも被害者意識が強いし、自分勝手なところが多い。子どもたちはよく見ている。しかし、そんな二人にも優しくしてあげることがある。もちろんではあるが。優しくしてもらった時には必ず「ありがとうと言いなさい」とありがとうの強要をさせている。「ありがとう」は心から思っていて初めて出るもので、言わされるものではない。。。のかな。。。) 素直に言える2人だから必ず言わせている。優しくしてくれた子に対してありがとうを言うことで少しは「いいやつ」と思ってもらえるようにするためである。注意は先生がする。子どもたちが注意をしないようにしている。そこもつらいが。 要相談してほしい。

7、色々試してみたい。みなさんはどうしているのか。

3学期から、班で係をすることにした。班でつながりを持たせたいからだ。見切り発車のためうまく浸透はしないが、班でいるため、係のことを話しやすい環境ではあると思う。

これもSの話だが、S自身がしたい係を班で言い実際にSの思う係になった。班のみんなはOKを出してくれたのである。しかし、Sは係の仕事をきちんとしないのである。子どもたちの声で、自分がしたいといったのにちゃんとしてほしいとのことだ。話し合いをして、Sはやると言った。班員は信じて次に期待をしている。班ですること、話し合いもしやすく、問題もおり浮き彫りになってくるのだろうと思った。

これからのこと

コロナで3学期は、より学級経営がしづらくなってきている。その要因として、オンラインである。コロナ不安、陽性、濃厚接触、といった様々な理由で学校に来ないで、自宅で勉強をしている。たまったものではない。班はパラパラ。繋ぐどころか離れていっている。Mに関しては、不登校になっていってしまうのでは。。。とても心配をしている。オンラインの良いところはなんだ？大人には都合のいいものではあるが、子どもの成長に本当によいものなのか。オンラインの整備なんて整っていないのに子どもたち同志繋がれない。完全に外と内で分断状態だ。話し合いもしにくい。真面目な子はかろうじてできるが、そうでないこはもう無理。3学期にこんなことになってしまったので、もう色々と崩れていった気がする。

子どもたちを繋げて本音を言える教室にしたい！！もちろんそれは、ある。しかし、今の自分の力量では、なかなかできない。自信がない。同志会的に突っ込みを入れたくなることは山ほどであると思う。

だからできることを少しでもやれたらいいなという気持ちでいる。だから、少しでも繋がれたらいいなと思っている。しかし、「繋がる」ということはどういうことなのか。どうしたら「繋がっている」のか。分からないことだらけ。同志会で学ぶことはまだまだたくさんあるな。